

研究会報告

瑞獣図研究会

本研究会は、早稲田大学會津八一記念博物館冬季企画展「古代中国の神話と祥瑞—武氏祠画像石拓本—」に関連する企画で、対面・オンラインのハイブリッド方式により、当館と本企画展を共催した科研費・基盤研究（B）「古代東アジアの祥瑞と王権：漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究」（研究代表者：松浦史子 22H00620）の非公開研究会として開催された。

本企画展担当者の1人である下野玲子が上記科研費の研究分担者でもあるため、企画展会期中の閉館日に展示メイン会場であるグランドギャラリー内に発表場所・座席を特設し、展示品の前で研究発表を実施することにした。発表内容は、後漢時代の名称・説明文付き祥瑞図として研究上重視される武氏祠祥瑞図（展示 No.24祥瑞図第一石、展示 No.25祥瑞図第二石、展示 No.27祥瑞図残石）を中心とする「祥瑞」をテーマとし、上記科研の研究分担者3名による発表の後、中国・日本の思想、文学、歴史学、考古学、美術史学、書道史などさまざまな分野の研究者が展示拓本を見学しながら意見交換を行い、学際的な研究交流としても有意義なものとなった。



会場の様子（趣旨説明） 松浦史子氏提供

会場：早稲田大学會津八一記念博物館 2階 グランド ギャラリー

日程：2022年12月27日（火） 13：30～17：00

◆参加者 非公開のため、参加者は上記科研の研究代表者（松浦史子：二松学舎大学文学部准教授）と研究分担者（下記発表者の他、齋藤龍一：大阪市立美術館主任学芸員、山崎藍：青山学院大学文学部教授、山本堯：公益財団法人泉屋博古館学芸員）、およびその他研究者・大学院生・博物館関係者若干名（所属はいずれも研究会当時のもの）。

プログラム

趣旨説明（下野玲子：早稲田大学會津八一記念博物館主任研究員）

「武氏祠祥瑞図の現状と本展覧会における特徴」（下野玲子：同上）

「画像石にみえる麒麟—中国思想と考古学」（大形徹：立命館大学衣笠総合研究機構教授・大阪府立大学名誉教授）

「武梁祠祥瑞図と東アジアの祥瑞」（水口幹記：藤女子大学文学部教授）※オンライン参加

質疑応答、意見交換、展示拓本見学

（文責：下野玲子）

